

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材の需要

平成24年の素材の需要量は2,465万6千<sup>3</sup>で、前年に比べて8万6千<sup>3</sup>（0.4%）増加した。これを需要部門別にみると、製材用は1,624万7千<sup>3</sup>、合板用は383万7千<sup>3</sup>で、前年に比べてそれぞれ17万9千<sup>3</sup>（1.1%）、2万1千<sup>3</sup>（0.5%）減少したものの、木材チップ用は457万2千<sup>3</sup>で、前年に比べて28万6千<sup>3</sup>（6.7%）増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が65.9%、合板用が15.6%、木材チップ用が18.5%となった。（表1、図1）

図1 素材需要量の推移

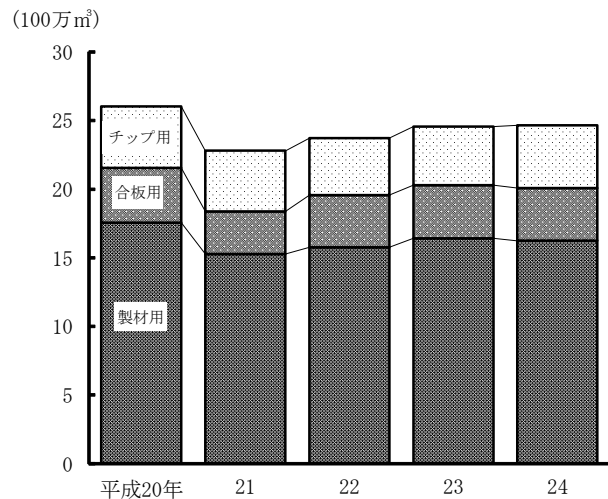


表1 需要部門別素材需要量

単位：千<sup>3</sup>

年次	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成24年	24,656	16,247	3,837	4,572
対前年比 (%)	100.4	98.9	99.5	106.7
構成比 (%)	100.0	65.9	15.6	18.5

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量	
	新設住宅 千戸	木造住宅 千戸	紙・板紙 千t	製紙パルプ 千t
平成24年	883	487	25,957	8,641
対前年比 (%)	105.8	104.7	97.5	96.0

資料：1) 国土交通省『建築着工統計』  
2) 経済産業省『紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報』

## (2) 素材の供給

素材の供給量は、国産材が1,847万9千<sup>3</sup>で、前年に比べて18万9千<sup>3</sup>（1.0%）増加した。

また、外材は617万7千<sup>3</sup>で、米材、ニュージーランド材及びその他が増加したものの、南洋材及び北洋材が減少したことから、前年に比べて10万3千<sup>3</sup>（1.6%）減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は74.9%となり、前年を0.5ポイント上回った。（表2及び3、図2）

図2 材種別素材供給量の推移

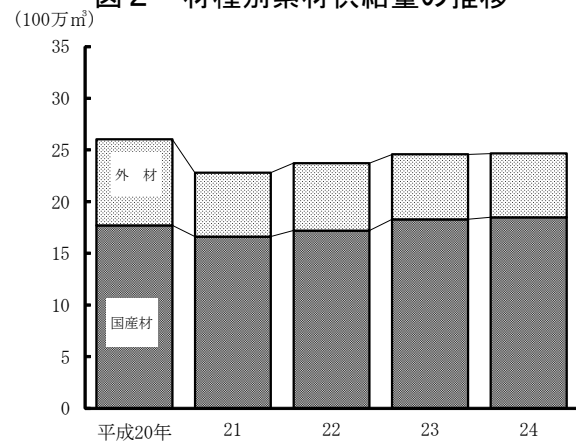


表2 国産材、外材別素材供給量

単位：千<sup>3</sup>

年次	計	国産材	外材
平成24年	24,656	18,479	6,177
対前年比 (%)	100.4	101.0	98.4
構成比 (%)	100.0	74.9	25.1

表3 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューシ- ラント材	その他	
平成24年												
計	24,656	18,479	16,062	2,417	6,177	347	258	4,372	468	803	187	
製材用	16,247	11,321	11,196	125	4,926	90	8	3,508	376	772	180	
合板用	3,837	2,602	2,593	9	1,235	251	244	855	x	x	x	
木材チップ用	4,572	4,556	2,273	2,283	16	6	6	9	x	x	x	
対前年比(%)												
計	100.4	101.0	100.5	104.9	98.4	75.3	73.3	102.8	78.1	101.6	105.6	
製材用	98.9	98.5	98.5	96.9	99.8	80.4	61.5	104.0	75.4	98.6	108.4	
合板用	99.5	103.1	103.1	90.0	92.6	72.3	72.4	97.5	x	x	x	
木材チップ用	106.7	106.6	107.8	105.5	133.3	300.0	300.0	450.0	x	x	x	
構成比(%)												
計	100.0	74.9	65.1	9.8	25.1	1.4	1.0	17.7	1.9	3.3	0.8	
製材用	100.0	69.7	68.9	0.8	30.3	0.6	0.0	21.6	2.3	4.8	1.1	
合板用	100.0	67.8	67.6	0.2	32.2	6.5	6.4	22.3	x	x	x	
木材チップ用	100.0	99.7	49.7	49.9	0.3	0.1	0.1	0.2	x	x	x	

注：構成比(%)は、四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある(以下の表において同じ)。

ア 国産材の供給

国産材の供給量(全国計のみ素材生産量と等しい。)を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,606万2千m<sup>3</sup>で、製材用は減少したものの、合板用及び木材チップ用が増加したことから、全体では前年に比べて7万6千m<sup>3</sup>(0.5%)増加した。

これを樹種別にみると、素材供給量の5割強を占めるすぎが前年に比べて30万7千m<sup>3</sup>(3.2%)、また、あかまつ・くろまつが8万1千m<sup>3</sup>(14.0%)増加している。一方、からまつ、ひのき及びえぞまつ・とどまつは、前年に比べてそれぞれ17万5千m<sup>3</sup>(7.2%)、4千m<sup>3</sup>(0.2%)、10万m<sup>3</sup>(10.5%)減少した。

また、広葉樹は241万7千m<sup>3</sup>で、木材チップ用の生産量が増加したことから、前年に比べて11万3千m<sup>3</sup>(4.9%)増加した。(表3及び4、図3)

図3 樹種別素材生産量の推移

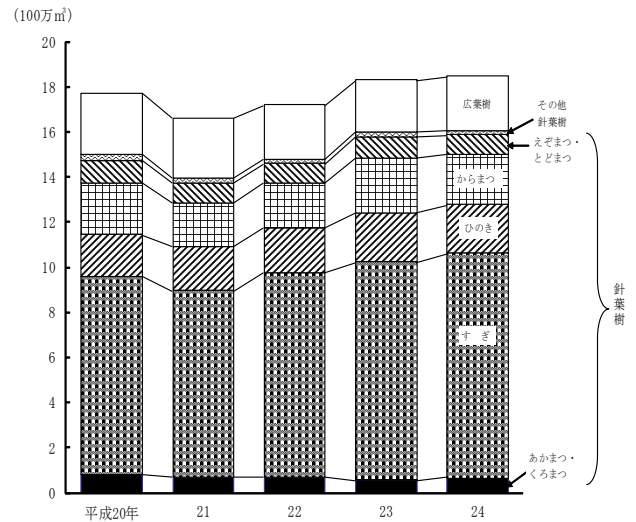


表4 需要部門別、樹種別素材生産量

単位：千m<sup>3</sup>

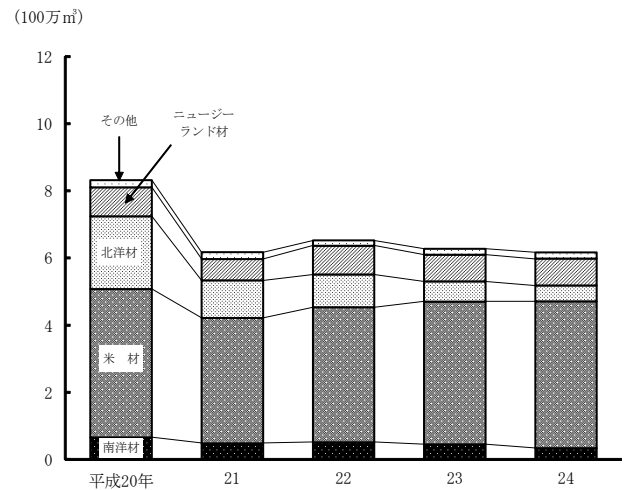
区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・ くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・ とどまつ	その他	
平成24年									
計	18,479	16,062	661	9,956	2,165	2,245	853	182	2,417
製材用	11,321	11,196	161	7,295	1,843	1,191	651	55	125
合板用	2,602	2,593	137	1,593	87	690	71	15	9
木材チップ用	4,556	2,273	363	1,068	235	364	131	112	2,283
対前年比(%)									
計	101.0	100.5	114.0	103.2	99.8	92.8	89.5	84.7	104.9
製材用	98.5	98.5	86.1	102.9	98.7	87.8	80.9	93.2	96.9
合板用	103.1	103.1	165.1	102.8	116.0	94.9	120.3	75.0	90.0
木材チップ用	106.6	107.8	117.1	105.7	103.5	108.0	147.2	82.4	105.5
構成比(%)									
計	100.0	86.9	3.6	53.9	11.7	12.1	4.6	1.0	13.1
製材用	100.0	98.9	1.4	64.4	16.3	10.5	5.8	0.5	1.1
合板用	100.0	99.7	5.3	61.2	3.3	26.5	2.7	0.6	0.3
木材チップ用	100.0	49.9	8.0	23.4	5.2	8.0	2.9	2.5	50.1

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、米材は437万2千m<sup>3</sup>、ニュージーランド材は80万3千m<sup>3</sup>で、前年に比べそれぞれ11万9千m<sup>3</sup> (2.8%)、1万3千m<sup>3</sup> (1.6%)増加したものの、北洋材は46万8千m<sup>3</sup>、南洋材は34万7千m<sup>3</sup>で、前年に比べてそれぞれ13万1千m<sup>3</sup> (21.9%)、11万4千m<sup>3</sup> (24.7%)減少した。

(表3、図4)

図4 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成24年12月31日現在の製材工場数は5,927工場で、前年に比べて315工場 (5.0%)減少した。これを製材用動力の出力階層別にみると、「300.0kW以上」の階層を除き全ての階層で減少しており、特に「37.5~75.0kW未満」、「22.5~37.5kW未満」の階層において、前年に比べてそれぞれ124工場 (6.2%)、91工場 (7.1%)と減少幅が大きい。

また、1工場当たりの出力数は113.9kWで、前年に比べて2.9kW (2.6%)増加した。

(表5)

表5 製材工場数、製材用動力の出力数

(平成24年12月31日現在)

出力階層	単位	平成24年	対前年比	構成比
			%	%
工場数計	工場	5,927	95.0	100.0
7.5~22.5kW未満	〃	716	94.6	12.1
22.5~37.5	〃	1,195	92.9	20.2
37.5~75.0	〃	1,891	93.8	31.9
75.0~150.0	〃	1,082	96.3	18.3
150.0~300.0	〃	601	97.1	10.1
300.0kW以上	〃	442	100.2	7.5
総出力数	kW	675,185.1	97.5	-
1工場当たり出力数	〃	113.9	102.6	-

イ 従業員数

平成24年12月31日現在で操業している工場の従業員数は3万1,638人で、前年に比べて844人 (2.6%)減少した。

また、1工場当たりの従業員数は5.4人で、前年に比べて0.2人 (3.8%)増加した。(表6)

表6 従業員数規模別製材工場数及び従業員数 (12月操業)

年次	従業員数規模別製材工場数 (12月操業)							従業員数 (12月31日現在)	1工場当たり 従業員数
	計	4人以下	5~9	10~19	20~29	30~49	50人以上		
平成24年	5,910	3,936	1,225	540	112	71	26	31,638	5.4
対前年比 (%)	95.3	94.1	95.9	100.9	98.2	110.9	81.3	97.4	103.8
構成比 (%)	100.0	66.6	20.7	9.1	1.9	1.2	0.4	-	-

ウ 製材用素材消費量

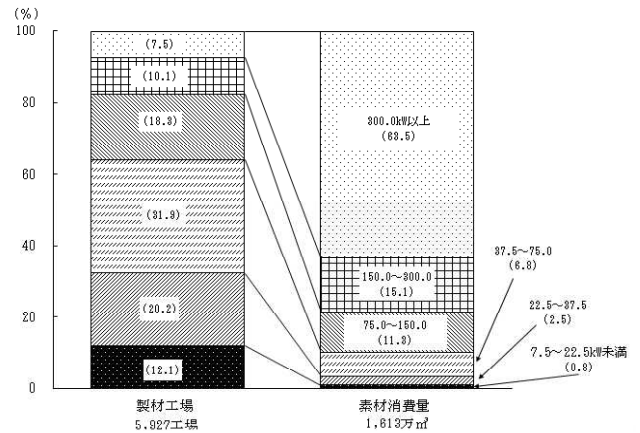
平成24年の製材用素材消費量は1,612万5千m<sup>3</sup>で、前年に比べて2万5千m<sup>3</sup>（0.2%）減少した。これを製材用動力の出力階層別にみると、消費量の6割を占める「300.0kW以上」の階層において22万6千m<sup>3</sup>（2.3%）増加しているが、他の全ての階層は前年に比べて減少しており、特に、「37.5～75.0kW未満」の階層において減少幅が大きくなっている。

なお、1工場当たりの素材消費量は2,721m<sup>3</sup>で、前年に比べて134m<sup>3</sup>（5.2%）増加した。（表7、図5）

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	平成24年	対前年比	構成比
計	千m <sup>3</sup>	16,125	99.8	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	137	92.6	0.8
22.5～37.5	〃	405	93.5	2.5
37.5～75.0	〃	1,090	89.3	6.8
75.0～150.0	〃	1,824	99.4	11.3
150.0～300.0	〃	2,431	97.2	15.1
300.0kW以上	〃	10,238	102.3	63.5
1工場当たり消費量	m <sup>3</sup>	2,721	105.2	-

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合（平成24年）



エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成24年の製材用素材入荷量は1,624万7千m<sup>3</sup>で、前年に比べて17万9千m<sup>3</sup>（1.1%）減少した。これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,132万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べて17万1千m<sup>3</sup>（1.5%）減少し、外材の入荷量は492万6千m<sup>3</sup>で、前年に比べて8千m<sup>3</sup>（0.2%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は69.7%で、前年（70.0%）を0.3ポイント下回った。（表8、図6）

図6 製材用素材の入荷量の推移

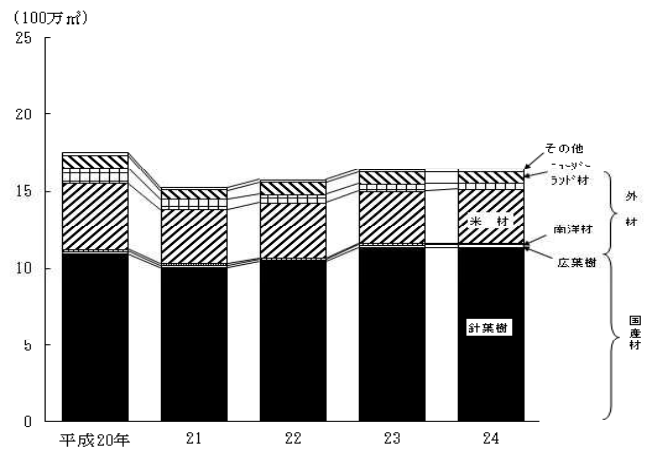


表8 材種別製材用素材の入荷量

単位：千m<sup>3</sup>

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成24年	16,247	11,321	11,196	125	4,926	90	8	3,508	376	772	180
対前年比 (%)	98.9	98.5	98.5	96.9	99.8	80.4	61.5	104.0	75.4	98.6	108.4
構成比 (%)	100.0	69.7	68.9	0.8	30.3	0.6	0.0	21.6	2.3	4.8	1.1

(イ) 素材の入荷があった製材工場は5,883工場で、前年に比べて292工場（4.7%）減少した。これを入荷類型別の工場数でみると、国産材のみは4,164工場、国産材と外材は1,326工場、外材のみは393工場で、前年に比べてそれぞれ208工場（4.8%）、80工場（5.7%）、4工場（1.0%）減少した。

入荷量でみると、外材のみは312万8千 $m^3$ で、前年に比べて13万2千 $m^3$ （4.4%）増加したものの、国産材のみは1,025万1千 $m^3$ 、国産材と外材は286万8千 $m^3$ で、前年に比べてそれぞれ7万5千 $m^3$ （0.7%）、23万6千 $m^3$ （7.6%）減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量の全体の約6割を占めている。（表9）

表9 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成24年								
計	5,883	16,247	4,164	10,251	1,326	2,868	393	3,128
7.5～22.5kW未満	712	136	587	112	94	18	31	6
22.5～37.5	1,188	411	914	282	219	111	55	18
37.5～75.0	1,871	1,119	1,253	767	521	289	97	63
75.0～150.0	1,076	1,832	717	1,275	269	361	90	196
150.0～300.0	595	2,451	379	1,743	151	436	65	272
300.0kW以上	441	10,298	314	6,072	72	1,653	55	2,573
対前年比(%)								
計	95.3	98.9	95.2	99.3	94.3	92.4	99.0	104.4
7.5～22.5kW未満	95.7	91.3	93.9	90.3	101.1	90.0	119.2	120.0
22.5～37.5	93.5	96.0	92.1	89.5	93.6	123.3	122.2	81.8
37.5～75.0	94.2	91.8	93.2	91.2	98.3	92.9	85.8	92.6
75.0～150.0	96.4	99.9	98.6	103.1	89.1	84.9	103.4	114.6
150.0～300.0	96.6	95.7	100.3	98.1	89.9	82.1	92.9	107.9
300.0kW以上	100.0	100.6	102.6	100.7	91.1	95.7	98.2	103.8

注：工場数は、平成24年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は930万2千 $m^3$ で、前年に比べて13万2千 $m^3$ （1.4%）減少した。

出荷量を用途別にみると、建築用材のうち板類及びひき割類の用途において、前年に比べてそれぞれ8万9千 $m^3$ （5.5%）、26万7千 $m^3$ （9.9%）増加したものの、木箱仕組板・こん包用材、土木建設用材及び家具・建具用材の用途において、前年に比べてそれぞれ11万4千 $m^3$ （9.3%）、1万2千 $m^3$ （2.8%）、2万 $m^3$ （25.0%）減少した。

また、人工乾燥材出荷量は274万4千 $m^3$ で、前年に比べて11万2千 $m^3$ （4.3%）増加し、出荷量計における人工乾燥材出荷量の割合は29.5%で前年（27.9%）を1.6ポイント上回った。（表10、図7）

図7 用途別製材品出荷量の推移

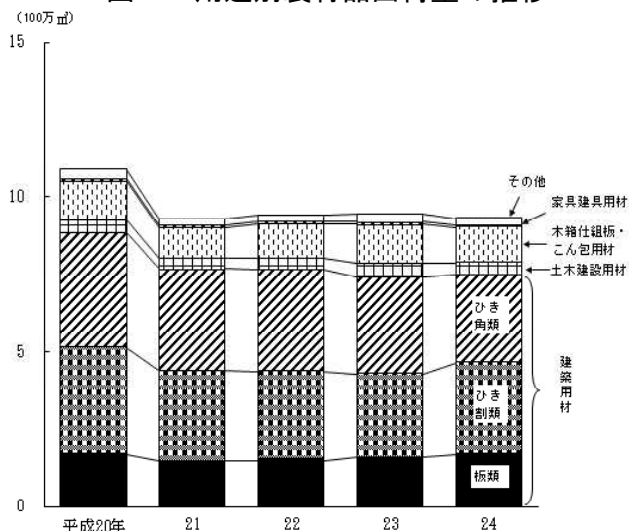


表10 用途別製材品出荷量

単位：千 $m^3$

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成24年	9,302	2,744	7,484	1,705	2,954	2,825	424	1,110	60	224
対前年比(%)	98.6	104.3	100.7	105.5	109.9	90.2	97.2	90.7	75.0	86.2
構成比(%)	100.0	29.5	80.5	18.3	31.8	30.4	4.6	11.9	0.6	2.4

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成24年12月31日現在の合単板工場数は197工場で、前年に比べて6工場(3.0%)減少した。これを製造種類別にみると、単板のみ製造している工場は、前年に比べて3工場(23.1%)増加したが、その他の工場は全て前年に比べて減少した。

合単板工場の従業者数は7,311人で、前年に比べて70人(1.0%)増加した。

なお、1工場当たりの従業者数は37.1人で、前年に比べて1.4人(3.9%)増加した。(表11)

表11 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数(平成24年12月31日現在)

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり 従業者数 人
	計		9人以下	10~49	50~99	100~199	200~299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	
計	197	97.0	88	71	15	15	6	2	7,311	101.0	37.1
単板のみ	16	123.1	7	8	-	1	-	-	373	109.7	23.3
普通合板のみ	34	97.1	2	9	8	11	3	1	1) 3,759	1) 98.5	1) 104.4
普通合板と特殊合板	2	66.7	-	-	1	1	-	-	...	...	...
特殊合板のみ	145	95.4	79	54	6	2	3	1	3,179	103.1	21.9

注：1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成24年の単板製造用素材の入荷量は383万7千m<sup>3</sup>で、前年に比べて2万1千m<sup>3</sup>(0.5%)減少した。これを国産材、外材別にみると、国産材は260万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べて7万8千m<sup>3</sup>(3.1%)増加したが、外材は123万5千m<sup>3</sup>で、前年に比べて9万9千m<sup>3</sup>(7.4%)減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は67.8%で、前年(65.4%)を2.4ポイント上回った。

(表12、図8)

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

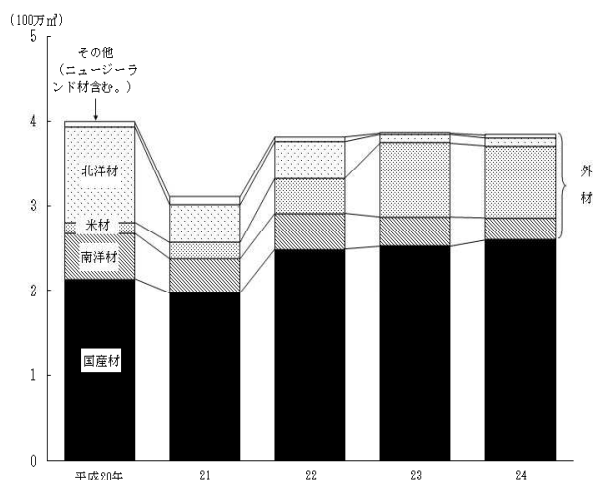


表12 材種別単板製造用素材の入荷量

単位：千m<sup>3</sup>

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成24年	3,837	2,602	2,593	9	1,235	673	251	244	855	x	x	x
対前年比(%)	99.5	103.1	103.1	90.0	92.6	101.2	72.3	72.4	97.5	x	x	x
構成比(%)	100.0	67.8	67.6	0.2	32.2	17.5	6.5	6.4	22.3	x	x	x

ウ 普通合板生産量

平成24年の普通合板生産量は254万9千 $m^3$ で、前年に比べて6万3千 $m^3$ （2.5%）増加した。

また、厚さ別にみると、「3～6mm未満」及び「3mm未満」については、前年に比べてそれぞれ1万1千 $m^3$ （12.2%）、6千 $m^3$ （23.1%）減少したものの、厚さ別生産量の8割を占める「12mm以上」及び「6～12mm未満」については、前年に比べてそれぞれ4万7千 $m^3$ （2.3%）、3万3千 $m^3$ （11.5%）増加した。

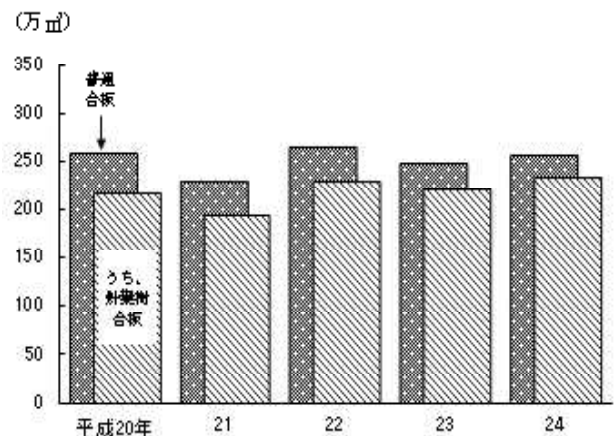
また、生産量のうち、針葉樹合板生産量は233万3千 $m^3$ で、前年に比べて13万5千 $m^3$ （6.1%）増加した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は91.5%で、前年（88.4%）を3.1ポイント上回った。（表13、図9）

表13 普通合板生産量

区 分	平成24年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
普通合板生産量	2,549	102.5	100.0
3 mm 未 満	20	76.9	0.8
3 ～ 6 mm	79	87.8	3.1
6 ～ 12 mm	321	111.5	12.6
12 mm 以 上	2,129	102.3	83.5
うち針葉樹合板	2,333	106.1	91.5

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

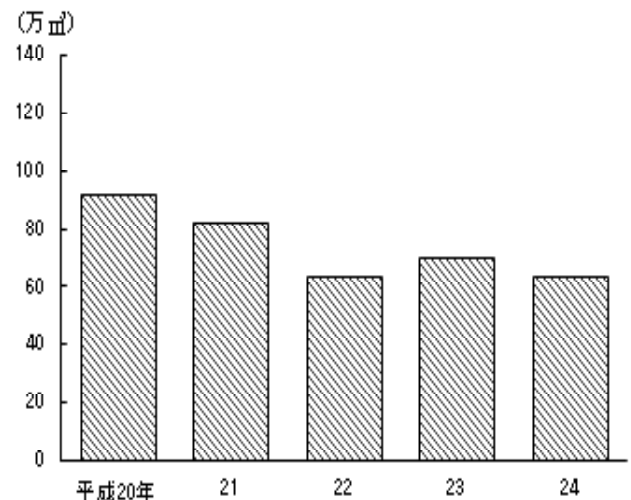
平成24年の特殊合板生産量は64万 $m^3$ で、前年に比べて6万3千 $m^3$ （9.0%）減少した。

種類別にみると、全ての種類において減少しており、プリント合板、天然木化粧合板及びオーバーレイ合板は前年に比べてそれぞれ2万4千 $m^3$ （26.4%）、7千 $m^3$ （24.1%）、1千 $m^3$ （4.8%）減少した。（表14、図10）

表14 特殊合板生産量

区 分	平成24年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
特殊合板生産量	640	91.0	100.0
オーバーレイ合板	20	95.2	3.1
プリント合板	67	73.6	10.5
塗装合板	6	66.7	0.9
天然木化粧合板	22	75.9	3.4
その他の合板	525	94.9	82.0
うち木質複合床板	355	91.5	55.5

図10 特殊合板生産量の推移



### (3) 木材チップ製造業

#### ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成24年12月31日現在の木材チップ工場数は1,536工場で、前年に比べて9工場(0.6%)減少した。これを専門・兼営区分別にみると、木材チップ専門工場は389工場で、前年に比べて9工場(2.4%)増加したものの、製材又は合単板工場との兼営工場は1,147工場で、前年に比べて18工場(1.5%)減少した。

木材チップ工場の従業者数(製材又は合単板工場との兼営工場の従業者のうち、主たる業務が木材チップ業務以外のものを除く。)は2,880人で、前年に比べて43人(1.5%)増加した。

また、1工場当たりの従業者数は1.9人で、前年に比べて0.1人(5.6%)増加した。(表15)

表15 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数  
(平成24年12月31日現在)

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数 人
	計		4人以下 工場	5~9 工場	10~19 工場	20人以上 工場	実数 人	対前年比 %	
	実数 工場	対前年比 %							
計	1,536	99.4	1,345	139	43	9	2,880	101.5	1.9
木材チップ専門工場	389	102.4	218	121	43	7	...	...	...
製材又は合単板工場との兼営工場	1,147	98.5	1,127	18	-	2	...	...	...

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

#### イ 木材チップ用素材入荷量

平成24年の木材チップ用の素材入荷量は457万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べて28万6千m<sup>3</sup>(6.7%)増加した。これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は455万6千m<sup>3</sup>、外材の入荷量は1万6千m<sup>3</sup>で、それぞれ前年に比べて28万2千m<sup>3</sup>(6.6%)、4千m<sup>3</sup>(33.3%)増加した。

(表16、図11)

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

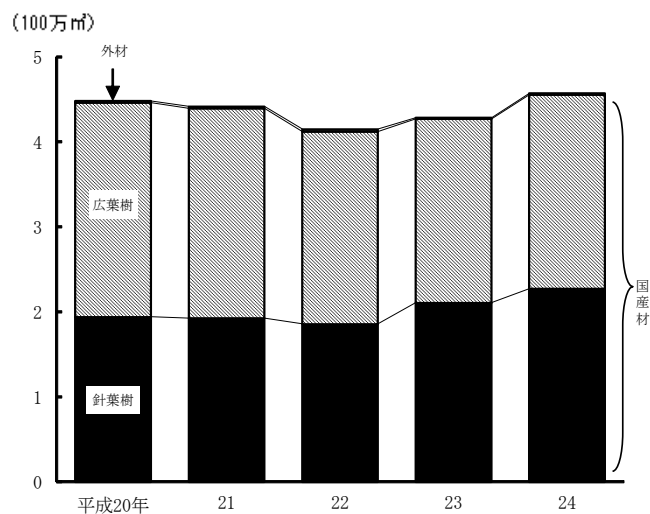


表16 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

単位：千m<sup>3</sup>

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューシールランド材	その他
平成24年	4,572	4,556	2,273	2,283	16	6	6	9	x	x	x
対前年比 (%)	106.7	106.6	107.8	105.5	133.3	300.0	300.0	450.0	x	x	x
構成比 (%)	100.0	99.7	49.7	49.9	0.3	0.1	0.1	0.2	x	x	x



ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成24年の木材チップ生産量は586万1千tで、前年に比べて22万8千t（4.0%）増加した。

これを原材料別にみると、工場残材は、前年に比べて5万9千t（3.4%）減少したものの、原材料の4割を占める素材（原木）、解体材・廃材及び林地残材において、前年に比べてそれぞれ17万8千t（7.5%）、6万1千t（4.4%）、4万8千t（33.1%）増加した。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は287万7千t、広葉樹は153万3千tで前年に比べてそれぞれ3.4%、5.0%増加した。（表17、図12）

表17 木材チップ生産量

区 分	平成23年	対前年比	構成比
	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,861	104.0	100.0
原材料別			
素材（原木）	2,554	107.5	43.6
工場残材	1,663	96.6	28.4
林地残材	193	133.1	3.3
解体材・廃材	1,451	104.4	24.8
針葉樹・広葉樹別			
針葉樹	2,877	103.4	-
広葉樹	1,533	105.0	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移

